

現場の判断の集積が業績を決め、 次の展望を切り拓いていく 40周年を迎えて内部強化を進行中

本質的な力を養うことが 社会から教育業界への要請

大学入試をはじめとする教育改革に対して、とすれば目先の対処法やビジネスチャンスなど、表層的な議論が先行しがちではないかと危惧しております。教育を取り巻く環境の変化は常に注視すべきではありませんが、学力の背後にある「本質的な力」という評価基準そのものを見極めることが、最も大切だと思います。

「本質的な力」とは言うまでもなく「問題解決力」や「忍耐力」「突破力」達成力」「自己肯定感」などの総称ですが、ペーパーテストでいい点数を取るためではなく、結果を出しうる能力をいかに養い高めていくかという視点で日々の指導にあたるのが、社会全体から教育業界への要請であると認識しています。

ただし、民間のサービス業は、高邁な教育論ばかりでは成り立ちません。これまで積み重ねてきたものを社会の要請に合わせて、よりスピーディーにアジャストしていくことが求められていると考えています。

大学入試改革は、すでに中学受験や高校受験に影響を及ぼし始めていますが、最も変動の幅が顕著なのは中学受験です。中学受験の指導は、各学校の特長にいかに対処していくかが急務となっています。

誉田進学塾グループでは、学校選びの際に単一な評価基準ではなく、校風や子どもの性格など多様性のある評価軸をもとに、きめ細やかにアドバイスをすることを大切にしています。私学が発信する「本校は子どものこういう能

力を最大限尊重して伸ばします」というメッセージは、私学の個性や魅力そのものです。それをしっかりと汲み取り、

ふさわしい能力を伸ばす指導を行うことは、私たち民間教育にとって非常に価値あることだと思います。

経営判断は現場にある。 業績は社員の判断の集積

先に述べた社会から教育業界への要請は、裏返せば塾業界がいかなる価値を社会に提供できるかが問われているということにほかなりません。教育サービスの価値やコンプライアンスを含めた企業姿勢を社会に提示していかなければならないと思います。そういう意味では、まだまだ未成熟な業界だと認めざるを得ません。

さらに言い換えれば、社員が塾の先生として誇りを持って人生を歩んでいくことが、教育業界の価値を高めることになるはず。自己実現を望む

社員にとって望ましい職場環境は「この会社なら面白いことができる」と思えるかどうか、そこに尽きます。同じ業務でも常に昨日より今日、今日より明日と進化した、スキルアップしたいという意思を喚起することがトップの役目です。

しかしながら、トップが実際に舵取りできる範囲は非常に少ないとも考えています。業績は経営判断とその実践で決まりますが、ほとんどの経営判断は日常に埋もれている一瞬一瞬、ひとりひとりの社員の現場判断の集積にほかならないのです。例えば、「生徒



誉田進学塾グループ (有限会社 ジャスマック)

千葉県千葉市

清水 貫

代表取締役

誉田進学塾グループ

誉田進学塾

誉田進学塾 ism

誉田進学塾 sirius

誉田進学塾 premium / 東進衛星予備校

のためにできることは何か？」と問われたときに、上司の判断を仰いで思考停止をしてしまうのではなく、一人ひとりの社員が日々感覚を研ぎ澄まし、判断できるように導いていかなければなりません。

極論すれば、例えば保護者からの相談の電話に飛びついて対応する瞬発力があるか、また「それはお子さんのためにならないのではないか」と一歩

踏み込んだ意見を保護者と交わすことができるか、さらに子どもとのつき合い方をその場で楽しく終わらせずに、決意させるまで粘り強く向き合うか、そうした判断の集積が会社の業績を決め、来期の展望につながっていきます。個々の力の積み重ね、チームプレイこそが原動力となって結果を出していくことが、組織として望ましい形だと思っています。

内部改革・内部強化が進行中 「豊学塾 / ism本納」も始動

誉田進学塾は、いよいよ40周年を迎えます。折しも大学入試改革に伴い、現在は内部改革・内部強化を最優先事項として取り組んでいます。すでに昨年からカリキュラムの見直しに取り組んできました。現状のカリキュラムを分析・研究し、試行錯誤を重ねて改善しています。長年積み上げてきた実績の中で、時間の経過とともに疲弊している要素などをすべて洗い出しておいて、2018年はさらにもう一段進んだ形で進化したと考えています。一段・二段とブラッシュアップして、成績アップ・合格力を生み出すコアメソッドの締め直しを行います。あたたかも時計のオーバーホールのように一度分解して、組み立て直しているところ

です。

また、社内の声を吸い上げながら、社内研修の精度を高める取り組みも進めています。業界全体が人材確保に苦戦しているのが現状ですが、引き続き新しい活力を積極的に採用していきたいと考えています。

2018年以降に向けての展望をお話しますと、ここ2年ほど出店は控えておりましたが、ご縁があつて隣接する茂原市本納の老舗塾の運営を引き継ぎました。これまでのブランドを残しつつ、「豊学塾 / ism本納」として3月から始動します。

教育への志のある若い人たちが活躍できる場を創るために、頑張ります。